いわぬまぶんかざいつうしん
岩沼文化財通信
～第43回文化財企画展②～

阿武クマさん

第 17 号
2024 年 5 月 24 日発行
岩沼市ふるさと展示室（市民図書館２階）
TEL：0223-25-2302

質問受付中！

原遺跡第７・８次調査の速報展！開催中！

土器にさわってみようコーナー

現在開催中の企画展では、見つかった本物の土器に触れることができるコーナーを設けています。土器は大きく２種類、「**土師器**」と「**須恵器**」です。今回はこの２つの土器について解説します。

土師器

煮炊き（料理）むき

古墳時代から平安時代にかけての土器です。縄文時代から続く技術でつくられたもので、地面にほった浅い穴などを使って 700℃から 800℃程度の温度で焼いた土器です。低温で焼かれるため、赤茶色になります。比較的壊れやすく保水力もそれほどありません。

東北地方の土師器の中には、内側が黒いものがあります。これは「黒色土器」と言い、内側を黒漆や墨などでコーティングし、水分が染み込まないよう工夫されたものもあります。

※水に強くはないが、火にかけることができる。

１次調査で発掘した土師器

地面をほり、土器を焼く

それぞれの特徴に合わせて使い分けて使用していました。

須恵器

貯蔵・保存むき

土師器と同じく、古墳時代から平安時代にかけての土器です。斜面にほったトンネル状の窯の中で焼かれます。窯のつくり方が土師器と違うため、温度が 1200℃から 1300℃と高温で焼き上げられ、硬くて丈夫です。この特殊な窯のつくり方は朝鮮半島から伝わった当時最先端の技術でした。高温で焼かれるため、色は灰色になります。

※完成品は水に強いですが、火にかけると破裂してしまいます。

※窯を造る高度な技術が必要。

８次調査で発掘した須恵器